

広報

No. 132

くらが

昭和59年6月15日

発行・編集 国見町企画課

※※※※※
おもな内容
※※※※※

町制施行30周年記念式	2～4
町政モニター	5
河川愛護月間	6～7
愛の献血に 140名	8
ふるさとの文化財	9
おしらせ	10～11
公民館だより	12～13



'84

6月

ボランティア③

—子どもたちに剣道の指導—

瀬戸共明さん

町制施行

三十周年記念式典を挙行



昭和二十九年三月三十一日、県下に先がけ、藤田町、小坂村、森江野村、大木戸村、大枝村の一町四ヶ村が合併し、国見山、国見峠などの地名をとり、国見町が誕生し、以来、三十年を経過しました。

町制施行三十周年記念式典は、六月二日、午前十時から、町民体育館で、町、町議会、各種団体の代表、来賓の県や郡内の首長、議会議長、それに表彰者ら合わせて四百人が出席して行われました。

佐藤善右工門町長が式辞を述べ、菊地政治町議会議長のあいさつとあて、歴代町長ら功労者百六十六人に感謝状、また、今年度町規定表彰者十七人に表彰状が贈られました。

来賓の亀岡高夫代議士、鬼事代理の平原正道県地方課長、亀岡義彦県議、県町村会長の半沢栄一郎月節町長らが祝辞を述べました。

斎藤栄吉県議の音頭で乾杯し、祝宴で三十年の歩みを振り返りながら、和やかに歓談しました。

町制施行三十周年記念式典 式辞

本日ここに国見町制施行三十周年記念式典を挙行いたしましたところ、来賓の皆様には何かと多量の折柄お繰り合せの上多数ご臨席を賜りまして、まことにありがたく厚くお礼申し上げます。

さて当町におきましては関係各方面の格別のご指導ご支援によりまして、町村合併促進法による県内のモデルとして、昭和二十九年三月三十一日、藤田町、小坂村、森江野村、大木戸村、大枝村の一町四ヶ村が対等合併をなし、新国見の誕生以来本年をもって満三十年を迎えたのであります。この間困難な財政事情のもとで、生活基盤、産業基盤はもとより、学校役場庁舎の建設や町民の生活環境整備のための各種施設も年とともに整備し、希望に満ちた明るく豊かな住みよい町として前進しております。今日この国見町があるのも、新町の発足以来国見町のゆるぎない基礎を築かれるために、並々ならぬご尽力賜った歴代の町長さんをはじめ議会議員の皆さん、町職員関係各位、そして町政にご協力をいただいた一万二千町民の郷土愛の発露に対し深く敬意を表し衷心より感謝を申し上げます次第であります。

当国見町は東北自動車道路、更には東北新幹線の通過により、今や町の様相も大きく変貌し、町といたしましてもこれに対応した地域開発と近代的な町づくり施策を推進するとともに、更に一歩進めて心のふれあいを高め、豊かで活力ある町づくりを基調に、充実躍進の時期としての位置づけ、来るべき二十一世紀に向つて人間性豊かなゆとりと生きがいのある地域社会の創造を目指して、さらに強力な施策を展開してまいりたいと思っております。

現在町では町制施行三十周年の関連事業として、上野周辺を運動公園として開発すべく着手し、この四月には勤労者体育センターが完成し、本年はテニスコートの建設と、将来は町民の憩いの場として整備するとともに、観月台公園の周辺を町民のコミニケーションの場所として文化施設を設置し、教育と文化を高め希望に満ちた町づくりに全力を傾注してまいりたいと思っております。

(一部略)

私は本日の式典が、三十歳に達した国見町のますますの伸長発展と、町民福祉増進の一里塚となることを念じつつ、なお一層の奮励努力することをお誓いいたしまして式辞といたします。

町政施行三十周年記念式表彰

特別功勞

▽歴代町長

- 故 半沢 殷保 (初代町長)
- 故 赤井 煙直衛 (二代町長)
- 故 関口 道孝 (三代町長)

▽歴代議長

- 故 武見 弥八郎 (初代議長)
- 奥 山 亀一 (二代議長)
- 故 大沼 西治 (三代五代議長)
- 故 東海 林一郎 (六代議長)

▽歴代助役

- 八 巻 龜寿 (四代助役)
- 兼 三 郎 (五代助役)

▽歴代収入役

- 奥 山 忠雄 (二代収入役)

▽歴代教育長

- 岩 谷 唯近 (四代教育長)
- 遠 藤 金六 (五代教育長)

▽医療行政

- 本 宿 尚 (公立藤田病院 長)

善行特別功勞

- 佐藤 善次郎 (文化活動振興)
- 菊池 昌二 (森林行政)
- 菊池 利雄 (郷土史研究活 動)
- 高橋 友義 (畜産振興)
- 鈴木 美一 (社会教育活動)
- 内池 和子 (読書活動)
- 国見 町納税貯蓄組合連合会 (納税思想の普及と高揚)
- 国見 ライオンスクラブ (豊かで明るい町づくり)
- 福島信用金庫 (行財政)
- 東北電力株式会社 (防犯活動)

▽監査委員 (十一年以上在職者)

- 本 田 吉助

▽民生委員 (十一年以上在職者)

- 曳 地 善作 佐野市郎
- 佐藤 マサイ 朝内ひで
- 村 上 ハツヨ (以上現)
- 佐久間 いち 奥山シマ
- 八 島 福太郎 (以上元)

功 勞

▽議員 (十一年以上在職者)

- 宍 戸 三郎 賀藤 貞

▽消防団 (三十一年以上在職者)

- 樋 口 弥太郎 林 元治
- 大 波 治男 後藤 昌伸

- 佐藤 忠美 松浦 義男
- (以上現)
- 佐野 正治 大浪 政吉
- 小林 正夫 遠藤 喜平
- 佐藤 元一 佐藤 新七
- 奥山 福太郎 渋谷 貞一
- 佐久間 正寛 松浦 喜一郎
- (以上元)

▽農業委員 (十一年以上在職者)

- 引 地 孝 菊地 太三
- (以上現)
- 佐久間 直次 香野 喜一
- 紺野 忠蔵 佐藤 善二郎
- (以上元)

祝 辞

昭和五十九年六月二日 国見町長 佐藤 善右工門

国見町制施行三十周年記念にあたり、ひと言ごあいさつを申し述べたいと存じます。

国見町が昭和二十九年二月三十一日、一町四ヶ村の村等合併により、国見町制を施行いたしましたから早くも三十年の星霜が過ぎ去ったのであります。

当時伊達管内には三十二の町村がございましたが、国の方針により、町村を統合し、行政の効率化と住民福祉の増進を図る目的のもとに、町村の合併が推進されたのであります。

特にわが町は、県ご当局の合併モデル地区の指定を受け、伊達郡のトップを切って合併し、新しく国見町が誕生したのであります。それから三十年、この間幾多の変遷を辿りながら、お陰様をもちまして、生活環境づくり、産業の振興、教育文化の高揚などの諸施策、事業の実現に努力し、豊かで住みよい町として着実に発展しておりますことは、誠に同慶にたえないところであります。

このことは偏見に福島県ご当局の温かいご指導と、本町の今日の繁栄の礎を築かれた、大先輩諸賢の英知と、地みない努力の賜でありまして、ここに改めて深甚なる敬意を表しますと共に、町民各位のご理解ある力強いご支援に対しまして、衷心より厚く感謝を申し上げます。

本日は、町政の振興発展のために多大のご貢献をなされました歴代の町四役、議会議長をはじめ議会議員、農業委員、消防団員など、各層にわたる多くの方々のご功績に対しまして、町から感謝状と併せ、町表彰規定に基づく表彰状が授与されましたが、授与された皆さんの方、在職中に尽されたご功勞に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

輝かしい国見町制施行三十周年を迎え、私共町議会も議決機関としての機能を存分に発揮し、執行部と共に、車の両輪のごとく、町政発展のために更に努力をいたす決意でございます。

この記念すべき年にあたり、先駆者の遺業を銘記し、更に躍進するため、町民皆様方の絶大なご協力をお願い申し上げますとともに、限りないご繁栄を心からご祈念いたしましてごあいさついたします。

昭和五十九年六月二日 国見町議会議長 菊地 政治

(前ページより)

- 渡辺茂吉 高橋丑蔵
- 武田 孟 佐藤英治
- 熊坂栄一 岡崎長平
- 村上公月 渡辺富男
- 菅野秀一 大津昭一
- 林初男 佐久間政雄
- 佐藤正雄 佐藤俊一郎
- 佐久間壽助 横山庄市
- 近野富多 (以上現)

- 徳江喜一 菅野賢郎
- 佐藤直哉 斎藤 清
- 長谷川正男 高橋勇記
- 鈴木正治 阿部和平次
- (以上元)

▽町職員(二十一年以上在職者)

- 佐藤知子 赤坂正勝
- 武田喜男 松浦善雄
- 佐藤幸子 渡辺 幸
- 佐藤正吉 大内正美
- 松浦京子 鈴木捷治
- 天野英子 大波 健
- 大沼 勉 佐藤春夫
- 大浪敏男 佐野貞治
- 佐藤光一 八島忠雄
- 山田 久 清水良男
- 佐藤軒二 井砂研二
- 高橋喜久

吉田勝由

鴨田安蔵

▽部落会長(二十一年以上在職者)

▽納税貯蓄組合長(二十一年以上在職者)

- 佐藤久兵衛 吉田忠吉
- 菊地善吾 鴨田清作
- 仲野周一郎 岩城健治
- 佐久間勇治 吉川弥吉
- 穴戸己吉 (以上元)

▽国民年金組合長(二十一年以上在職者)

- 安藤正重 遠藤正一
- 熊坂キク(元) (以上現)

▽保健委員(二十一年以上在職者)

- 一条直右工門 佐藤義雄
- 熊坂 正 小島義吉
- 村上紹男 岩崎新一

▽母子保健推進委員(二十一年以上在職者)

- 奥山美津子 阿部照子
- 阿部ヨシ 安藤トヨ
- 佐藤イクヨ (以上現)
- 横山キサ(元)

▽統計調査員(二十一年以上在職者)

▽農業改良推進員(二十一年以上在職者)

- 佐藤俊雄 安藤良一
- 阿部重男 佐藤長寿
- 小林福治 斎藤喜代太
- 佐藤充作 蓬田正敏
- 菊地憲七 高梨正広

▽生活改良推進委員(二十一年以上在職者)

- 赤坂兼治 安藤 進
- 熊坂初男 佐藤祐三
- 佐藤次男 (以上現)
- 仲野周一 吉内吉蔵
- (以上元)

▽財産区管理委員(二十一年以上在職者)

- 斎藤大助(藤田)
- 松浦長明 佐久間孝雄
- (以上入山)

▽体育指導委員(二十一年以上在職者)

- 須田兼造(元入山)
- 斎藤英郎 佐藤 勝
- 鈴木 正 斎藤忠太郎
- 長谷川太郎 後藤 博
- 谷津一男 (以上大木戸)

▽牧野組合(二十一年以上在職者)

▽保護司(二十一年以上在職者)

- 菅野文男(現)
- 八巻忠一 高木万作
- (以上元)

松浦さんら十七人

町政功労者表彰

町表彰規程に基づく、昭和五十九年度町政功労者および善行



◇功労表彰

◇善行表彰

- 松浦芳蔵(町議会議員)
- 志村謙三(農業委員)
- 佐久間英明()
- 阿部恒夫(消防団員)
- 菅野一郎()
- 吉田貞造(町職員)
- 佐久間靖明()
- 菊地孝吉()
- 佐竹弘治()
- 須田善治()
- 小池芳男()
- 松浦英夫()
- 斎藤隆義()
- 佐藤徳治(納税貯蓄組合長)
- 幕田政雄()
- 八巻志逸()
- 佐藤徳造(青少年健全育成)

敬称略

者に対する表彰式が、町制施行三十周年記念式典とあわせて行われました。この表彰規程は、町の振興などに貢献された方々の功労および善行を顕彰するもので、今年で十八回目を迎えます。受表彰者は次のとおりです。

佐久間岩吉さんに 東北管区行政監察局長表彰



行政管理庁長官から行政相談委員の委嘱を受けている佐久間岩吉さん(七十九歳)は、この

たび、行政相談委員として行政に対する苦情の解決に尽力した業績が認められ、昭和五十九年度東北管区行政監察局長表彰を受けました。

佐久間さんは、昭和三十九年四月、行政相談委員の委嘱を受けてから、国、県、市町村などの行政機関、公社、公園などに対する皆さんの苦情・要望・問い合わせの申し出を受け、関係機関に連絡するなどして解決しています。

佐久間さんは、住民のよき相談相手としての活躍が望まれます。

藤田字北三八の一
☎八五二二〇三

吉田勝由さんに

県知事表彰



県内の各種功労者を顕彰する福島県知事表彰が、五月八日に行われ、町納税貯蓄組合連合会長の吉田勝由さん(宮町北・七十二歳)が、納税功労者として松平知事から表彰されました。

吉田さんは、二十年間、宮町北部落納税貯蓄組合長を勤め、その間、昭和四十七年から町納税組合連合会長、福島地区納税貯蓄組合連合会副会長、福島県納税貯蓄組合連合会理事として、納税思想の普及と納税率の向上ととりわけ、十六年連続個人町県民税の完納に尽力された功績を認められ、県知事表彰となりました。

新しい町政モニターが決まる

昭和五十九年度の町政モニターの方が決まり、五月十五日午前九時三十分から役場会議室で、委嘱状の交付式が行われました。

町政モニター制度は、町政に

関する町民の意見、要望などを広く取り入れて、住みよい町づくりを推進するために、昨年度からスタートしたものです。

町政モニターは、藤田地区四名、小坂・森江野・大木戸・

大枝の各地区二名ずつ合計十二名の方が、五月十五日付で委嘱されました。モニターの方々は、来年四月三十日までの一年間、町政のあらゆる分野にわたって活躍されます。

新しい町政モニターの方々は次のとおりです。



佐藤 公子さん
(石母田字弁天沢1の2)



奥山美津子さん
(藤田字北22)



荒木 輝征さん
(山崎字熊ノ前8)



遊佐 保平さん
(藤田字太子堂19の1)



佐野 一子さん
(徳江字北畑45)



吉田 勝基さん
(森山字東新田41)



佐藤 玲子さん
(泉田字平林7)



野村 和夫さん
(小坂字板橋24)



佐藤 和子さん
(西大枝字牛沢21)



佐藤 洋一さん
(西大枝字原鍛治23)



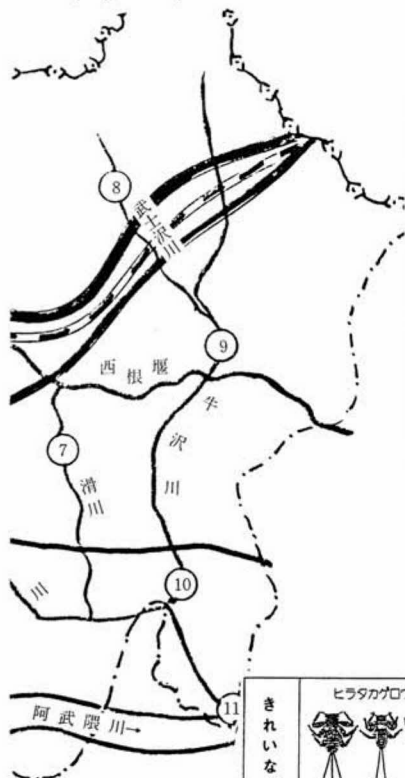
岡田 ズンさん
(貝田字寺脇9)



八島 健一さん
(高城字北32)

護月間

7月1日～31日



七月は、河川愛護月間です。私たちのまわりには、大小のたくさんさんの河川があり、私たちの生活に、深いかかわりをもっています。それらの河川は、きれいでしょうか？、それとも、汚れているでしょうか？、これらを判定するのに、ふつう、PPM、PH、BOD（生物化学的酸素要求量）など、私たち素人にはわかりにくい専門用語が使われています。県では、これらに代わるものとして、河川に生息する生物の種類で「きれいな水」「汚れた水」を判定しようと、今年から三年がかりで調査を開始しました。これまでの試験紙や薬品を使つての「理化学的水質調査」に代わり、「生物的水質調査」と呼ばれ、町では、河川愛護月間に先立ち、去る五月二十三日、主要河川十一ヶ所での調査を実施しました。結果は別表のとおりです。

これで見ると、かなり汚れている水が多いように思われます。サワガニ、ヨコエビなどがすむ、きれいな河川を、私たちみんなでとり戻しましょう。

きれいな水	ヒラタカゴロフ蝨	マダラカゴロフ蝨	フルマーシマトビケラ	カワガラ蝨	ヘビトンボ	サワガニ
ややきたない水	CAヒメカゴロフ	コカゴロフ蝨	コガタシマトビケラ	ヒラタドロシ	カワコナラ	ヒラメキミスマイマイ
かなり汚れている水	赤色ユスリカ	ヒル蝨	ミスムシ	さわめて汚れている水	イトミミズ	サカマキガイ



▲トンボの幼虫（ヤゴ）



愛 川 河



河川に生息する生物調べ

調査河川および場所	生	物
1 上 泉 川 (旧小坂峠入口付近)	サワガニ1	ヘビトンボの仲間3 カゲロウ類4 カワゲラ類3
2 滝 (西堂の合流点)	コカゲロウ26	トビケラ2 ヒル2 ヘビトンボ(マゴタロウムシ)2
3 竜 護 院 川 (藤 田 字 中 沢)	ヒル8	ミズムシ3
4 普蔵川・佐久間川合流点 (徳江字前原)	ヒル5	ミズムシ7 トビケラ類5
5 沢 田 堀 (藤 田 字 北)	ヒル1	オオユスリカ(アカムシ)8 ミズムシ2
6 滝 (藤 田 字 滑 沢)	ヒル3	カゲロウ類4 ミズムシ14
7 滑 (森山字堀ノ内)	ヒル2	ミズムシ9
8 武 士 沢 川 (大木戸字細蔵)	ガガンボカゲロウ23	ヤゴ1
9 牛 沢 川 (岩瀬遺跡下)	ゲンゴロウ類の幼虫1	ミズムシ9 トビケラ類1
10 牛 沢 川 (西大枝字築館)	ヒル5	ミズムシ19 カゲロウ類2
11 滝 (阿武隈川河口)	ヒル2	ミズムシ1 カゲロウ類1 トビケラ類1



▲カゲロウとトビケラ

愛の献血に

百四十名

五月十日、献血バスが来町し、農協本所前、役場前、国見電子前、宮町南の沢屋酒店前の四か所で献血活動を行いました。

今回は、初の試みとして、事業所以外の場所も取り入れ、また、国見ライオンズクラブ（坂東義弘会長）や町商工会などの協力で、百四十名（申し込み者は百五十三名）の方々が献血をしてくださいました。ご協力ありがとうございました。

年々、献血をする人が増えていますが、交通事故の増加や、医療技術の進歩に伴って、血液の需要はこれからも、ますます増加すると予想されます。

また、献血は、十六歳から六十四歳までの方で、体重が男子で四十五kg以上、女子は四十kg以上、薬を服用していたり、妊娠中ではない健康な方ならなどなくても献血をすることができま

す。また、献血をすることによって、健康管理と病気の早期発見、予防にも役立ちます。一回の採血量は二百cc（牛乳びん約一本分）で、二、三時間後には血液量が回復いたします。

次回の献血バスの来町は、七月二十日の予定となっておりますので、みなさんのご協力をお願いいたします。



献血協力を呼びかけるライオンズクラブの人たち



献血中の人たち

献血ありがとうございました

（順不同・敬称略）

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 菊地トヨ | 岡崎長子 | 遠藤弘 | 佐藤進 | 菅野光 | 菊地祝 | 菊地政 | 佐藤光 | 清野富 | 篠田国 | 大竹ツ | 長山誠 | 大町恵 | 藤田道 | 磯月辰 | 松村光 | 佐久間 | 佐藤利 | 佐藤弘 | 実沢敏 | 小早川 | 斎藤ト | 佐藤幸 | 吉田誠 | 高橋力 | 後藤健 | 村上健 | 半沢ア | 木住野 | |
| 須田重 | 吉田孝 | 佐藤孝 | 渡辺政 | 高橋政 | 市山ふ | 高橋政 | 安積ト | 菊地明 | 村上優 | 朽木優 | 五十嵐 | 菅野晴 | 菅野浩 | 鈴木信 | 鈴木信 | 佐藤良 | 佐藤良 | 佐藤良 | 古川キ | 吉田キ | 吉田キ | 徳江博 | 原田ト | 松浦昭 | 菅野昭 | 松浦昭 | 松浦昭 | 一本間 | |
| 後藤澄 | 半沢和 | 菅野俊 | 高橋庄 | 佐藤朝 | 西藤朝 | 八島和 | 高橋敏 | 村上永 | 武田秀 | 野村富 | 太田泰 | 樋口金 | 東海林 | 東海林 | 宮崎美 | 樋口郁 | 樋口郁 | 半沢豊 | 武田ア | 大森京 | 大森忠 | 吉田と | 秦一郎 | 高橋勝 | 渡辺正 | 佐藤孝 | 安産光 | 佐藤孝 | |
| 遠藤喜 | 佐久間 | 菅野久 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 | 菅野政 |

昭和五十九年度の県政モニターに山田恭子さん（大町北・二十一歳）が委嘱されました。この制度は、県政に関する県民の意見、要望などを組織的、継続的に聴取し、行政の参考に資するために設けられたもので、任期は一年間です。黒田忠一さんから六月一日でパトナツチされました。

明るく活発な中にも、音楽鑑賞と読書が趣味という山田さん、向こう一年間、県の仕事への意見、要望などを提出したり、アンケートに答え、県民代表の一人として活躍されることになり



県政モニターに
山田さん

佐野功
野分雄
引地由
小野智
小池芳
吉田貞
谷津富
羽根田

山田恭
山田博
安田三
山田富
菊地富
大波吉
吉田夫

ふるさとの文化財 ③

町指定天然記念物 義経の腰掛松

菊池利雄

石母田の字笠松に町指定の天然記念物「義経の腰掛松」がある。
 伝えによる松名のおこりは、平治の乱（二五）に敗れた源義朝の子である牛若丸（源義経）が、奥州の商人金光り吉次に伴われて、平泉の藤原秀衡をたよつての東下りの折、路傍に生えていた小松に腰をかけて、ひと休みしたとの故事に由来するといわれるが定かでない。

初代の松は、東西十九間（三〇・四六）南北十八間（三三・三八）高さが一丈三尺（四四）二本の太幹から四方に繁茂する枝ぶりが、笠を伏せた形によく似てい

たことから笠松ともいわれ、元録の石母田村絵図によれば、現在の松よりも一周りほど大きく、南側に伸びた枝は西根上堰をまたいだ姿で描がかれている。
 文政四年（一八三二）の八月、修験者某が、この松に果をつつた蜂退治のためたき火をしたところ、松に燃えうつつて、あた

ら名松を枯らしてしまつた。村人たちはこれを惜しみて、文政六年（一八三三）十月に信夫郡須貝才右衛門より、姿が笠松によく似た赤松の木をゆすり受け、川舟に積んで須川を下り福島を経由し、徳江川岸から陸あげされて運ばれ、移し植えられたのが現在の二代目の松である。
 焼けた初代の松の根株には、櫛がめぐらされた上に屋根がけられ、保存がなされてお



この松は江戸時代の中頃より、奥州街道の名所として、旅人の間に知られるようになり、山崎北華の「蝶の遊び」岡田土閉の妻が書いた「奥の荒海」や、天明八年（一八六〇）に幕府の奥羽御巡檢使に随行した、有名な地誌学者である古川古松軒の「東遊雜記」など、数々の紀行文に取り上げられて有名な松になった。
 また、松樹東側の傍には、寛政十二年（一八〇〇）十月に江戸の文人である、随古堂素閉によつて書かれた「義経の腰掛松」の碑が建てられた。
 昭和四十九年三月、町では天然記念物に指定し、その保護にあつてゐる。
 参考文献 国見町史一・二・四巻、信達三郎村誌、文政六年「石母田村組頭役日記」国分牛吉文書

「小学校四年の時、小・中学生混合での試合があり、メンバーの一人としてかりだされ、その時優勝し、以来、剣道とりにこになりました」と話す瀬戸共明さん（森山字西上野一二三十二歳）。

毎週月・金曜日、町民体育館で練習に励む剣道スポーツ少年団の指導者です。

瀬戸さんは、練士五段で、数々の大会に出場し、主なもので、小学校四年生の時の県大会準優勝、中学校三年生の時の東



■表紙

カメラ歳時記 ③

「ボランテア」

豆つ子剣士に 剣道の指導

日本大会個人の部優勝、高校時代のインターハイ県大会団体の部優勝、昭和四十六、七年度団体県大会個人の部二年連続優勝など、輝かしい戦績を残しています。

指導する剣道スポーツ少年団の団員は約五十名。他の指導者の人たちが、豆つ子剣士たちに手とり足とり、汗だくで教えています。

家では、食堂を営んでいるので、いまは月二回ほどしか練習に行けないとのこと。それでも八年間、子どもたちを指導し続け、みな、りっぱな剣士として育つていきました。

「現在、小学生の息子二人も剣道をやっていますので、子どもとのコミュニケーションとして、また、健康のため剣道を続けていきます」と瀬戸さん。

厳しきの中にも、子どもたちを見つめる目には、やさしさがたよつていました。



**新生活運動で
深めよう心のつながり**



新生活運動は、昭和四十九年八月三十一日から、国見町総ぐるみ運動として提唱され、明るく住みよい町づくりをめざして新生活運動の輪を広めてきました。

近年、物の豊かな時代となり生活は非常に潤い、向上してきましたが、その反面、物が行先「心」の豊かさを失いつつあるのではないのでしょうか。

この新生活運動は、町民みなさんの生活慣習の見直しを図り、お互いに助け合い、協力しあつて、心のかよう、住みよい地域社会をつくっていくものです。

今年も、次のことを申し合わせ、みんなで実践し、明るく住みよい町づくりをめざしていきましょう。

※重点申し合わせ事項

- 一、冠婚葬祭の簡素化を推進しましょう。
- ①結婚披露宴は簡素にし、会費制披露宴を取り入れましょう。
- ・部落つきあいでの御祝儀額は、七千円以内
- ②香典返しをとりやめ、ハガキで礼状を出しましょう。
- ・部落つきあいでの香典は、千円以内
- ③法要などは近親者にとどめるようにし、接待はできるだけ簡素にしましょう。
- ・部落つきあいでの御茶湯の額は、千円以内
- ④お見舞などのお返しは、ハガキで行いましょう。
- ・部落つきあいでのお見舞などの額は、千円以内
- ⑤成人式の嗜着は自粛しましょう。
- 一、何よりも心のつながりをたいせつにしましょう。
- 一、会合の時間を厳守しましょう。
- 一、住みよい環境をつくるため、川や道路、広場をきれいにしましょう。
- 一、すべての資源をたいせつにしましょう。
- 一、祝日には、国旗をかかげましょう。

国見町新生活運動推進委員会

**婦人少年室協助員に
阿部さん**

労働婦人少年局では、各地域において、婦人青少年問題について実情を把握したり、相談に応じたりする婦人少年室協助員制度を設けています。

協助員の任期は二年で、今年四月一日付をもって、阿部俊恒さん(徳江字中ノ内二)が、桑折町の角田道子さんともども国見町・桑折町・伊達町の協助員として、労働大臣から発令されました。

この制度は、婦人少年室の仕事について、民間の方々の協力援助を得て、婦人少年行政を地域の末端にまで浸透させ、婦人少年行政の円滑な推進を図ることを目的としておかれたものです。

協力員の仕事は、それぞれの地域において、働く婦人や働く青少年の保護や福祉に関する問題、家族従業者や労働者家族の問題、並びに婦人の地位向上その他の婦人問題について、地域の実情を把握したり、相談に応じたりすることなどです。

協助員は、その地域において社会的信望があり、婦人青少年問題に深い関心と理解をもち、婦人少年行政に積極的に協力し

ようという熱意を有する、主として民間の有識者に労働大臣が委嘱しています。

**土砂災害から
明るく家庭を守ろう!!**



六月は梅雨の季節です。毎年各地では、土石流・地すべり・がけ崩れが頻発し、尊い人命や財産が多数失なわれています。特に山手では、このような災害をなくすためにも、十分注意をはらいます。

六月一日から三十日まで、「土砂災害防止月間」として、全国的な運動が展開されています。

注意したい気象条件

- ◎長い雨 降り始めてから百ミリを超えるような時
- ◎強い雨 一時間に二十ミリを超えるような時
- ◎地震 強い地震の時や、地震後の雨

特に危険ながけの条件

- ◎傾斜 三十度以上
- ◎高さ 五メートル以上

戸籍の窓口

(5月受付分)

出生おめでとございます

子の名	保護者	部 落
由美子(ゆみこ)	遠藤 喜正	山 根 田
和 希(かずき)	安藤 裕	前 田 町
康 寛(やすひろ)	鈴木 竹彦	本 町
美(あさみ)	後藤 秀明	源宗山北
麻 美(さとみ)		
美 里(みさと)	佐藤 秀利	石母田西

ご結婚おめでとございます

氏 名	部 落
佐 藤 和 也	南 郡 十 十
肥 田 野 真 理 子	大 新 第 十
菊 地 富 子	石 母 田 東
菊 地 悦 子	岩 手 県 田
吉 川 英 壽 子	貝 宮 山 根
小 原 茂 子	具 宮 山 城
斎 藤 伸 一 子	宮 山 城
佐 藤 郁 金 正	
村 上 金 美 代 子	
野 間	

おくやみ申し上げます

氏 名	年 齢	部 落
大 槻 たけよ	83	第 十 二 坂
高 原 亀 蔵	79	小 坂

善意の窓

町社会福祉協議会に

将棋盤・駒 五組

◆東北中学校野球部支援会から
バット四本、一万円

藤田小学校に

◆大木戸小学校父母と教師の会
から
シーズン(六万五千円相当)
(廃品回収の益金で)

小坂小学校に

◆緑上松尾さん(宮町南)から
一万円—故郷吉さんの遺志

◆高橋勝美さん(山崎北)から
五万円—故外記さんの遺志

◆菊地忠平さん(石母田出身—
現ブラジル在住)から
油絵(オリキリーア)一点

◆石原厳さん(株式会社石原商
店社長)から
児童図書(五万円相当)

◆佐久間勝雄さん(宮町北)から
五万円—故ハナさんの遺志

◆吉田マキさん(山崎館)から
雑布百枚

※阿部栄一さん(泉田下)は、
休日を利用して、屋外設備(ふらんこ、すべり台、鉄棒、
式台など)のペンキ塗り替え
をしてくださいました。

◆東北中学校に

◆大木戸小学校に

◆菊地忠平さん(石母田出身—
現ブラジル在住)から
油絵(コチア街道)一点

◆松浦繁一郎さん(大木戸)から
五万円—大木戸小学校創立百
十周年を祝し、教育
の充実資金として

◆東北電力株式会社福島営業所
から 防犯灯三灯

人口と世帯

6月1日現在(前月比)5月中のうごき

人	男 5,871人 (+8)	転 入 26人
	女 6,184人 (-3)	転 出 24人
口	計12,055人 (+5)	出 生 6人
世帯数	2,863戸 (±0)	死 亡 3人

すくすくダイヤル

☎53-8222

よい子を育てる家庭教育電話相談

(月)・(水) 一般的(学識経験者) 9:30~15:30

(金) 専門的(医師、心理学者) 9:30~12:30

家庭教育でお子さんの

◎健康 ◎しつけ ◎交友関係 ◎進路……など

親として気がかりなことや悩んでいることについて、相談者といっしょに解決の方法を考え助言します。

どなたでも——どこからでも——お気軽に——どうぞ



6月 水無月(みなづき)

7月 文月(ふみづき)

17日(日)父の日

1日(日)国民安全の日

20日(水)定例町議会(予定)

安全週間

21日(木)夏至

7日(土)小暑、七夕

23日(土)オリンピックデー

13日(水)満月

心配ごと相談日

場所:役場二階相談室(東側入口からお入り下さい)

時間:9時~12時

こまったことや、相談ごとがありましたら、
お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。

[相談員]

6月25日(月)菅野 賛郎・栗瀬 貞子
7月5日(木)樋口 清三・佐藤マサイ
7月14日(土)曳地 善作・高橋 恵子



国見町公民館
☎85-2676
(有) 4156

乳幼児・婦人

成人各学級開講

◆乳幼児学級

町内に住む、〇歳児から二歳児をお育てのお母さん、おばあさんたちの学習の場としての乳幼児学級が、五月十六日午後一時から開講しました。

当日は教育長、館長のあいさつのと、担当者から教室開設の目的、意義、学習計画の説明がありました。



学習として二時から三時半まで、福島市立清水小学校長下山政一先生から「家庭の教育的機能と役割」と題して、現代の家庭崩壊、女性のライフサイクル、女性の家庭責任などの有意義な講義をいただきました。

なおこの学級は、お母さん方がゆつくり勉強出来るよう学習時間中は、ボランテアアの十六名の皆様が子どもたちを体育館などで保育して下さい、学級生の皆様、関係機関から大変感謝されております。現在学級生三十二名が十二月まで、月一回から二回程度学習して行きます。

今後は、六月二十日「望ましい家庭だんらんや行事のあり方について考える」、七月は「子どもの成長と発達」という題で学習して行きます。

また一般の方の聴講も歓迎いたしますので公民館まで問い合せて下さい。

◆中央婦人学級

五月二十三日(水)公民館で町長を来賓に、町内に居住する婦人を対象とした中央婦人学級の開講式が行われました。式修了後、第一回目として、

これからの学習をすすめるにあたり、「婦人と学習」について、県婦人教育指導員の大森瑛子先生を講師に行いました。

続いて、役員選出、次の方たちが決まりました。
委員長 佐久間勝子
副委員長 菅野 好子
会計 八島きえ子
後藤ツヤ子

なお、これからでも結構ですので、婦人のみなさん、共に学習いたしませんか。

七月の学習は、七月十八日(水)わが町を知ろうということ「郷土史跡探訪」を予定しております。



文化団体紹介

木曜会

代表 内池 和子

木曜会は、月一回の読書会を続けて今年で九年になります。先年まで、村上直治先生の御指導を受け、昨年からは、社会教育主事の渡辺先生に講義をお願いしております。

読書会の今年のテーマは、昭和に入ってから日本の文学作品を傾向別に少しづつ年代を追って読んでゆき、アウトラインを掴むということになっております。会員は現在十二名、忙がしい主婦のこととて、全員が集ることも珍らしく、吹雪の夜やお盆月など、何かと休会しがち

で、先生に呆れ返らばはしまいかと思う程ですが、万事のんびりとしていることが、会長統括させているのかも知れない

などと皆で語り合ったりしております。ともかく勉強というよりは、作品を芯にして語り合うことが多く時間を忘れて楽しんでおります。

五十三年から三年間勉強した藤村については修学旅行の意味で木曾に旅行してきたのも楽しい思い出です。また、五十四年から、ささやかな手作り会報を

出、最近五号が出来ました。読書会のために会の仕事として弱視児のための拡大写本製作と国見町内の「民話ききぎ」とがあります。写本については、会員外の方たちからも応援を受け、現在まで十冊の本を贈呈いただきました。また、民話きききは、五十四年より、各方向の方々の御協力を得て続けておりますが、もう少し、お聞きしたいと思えます。幼い時にお聞きになった昔ばなし、ざっと昔、或は、昔あつたことなど、是非御一報いただきたいと存じます。読むことも、書くことも、かたつむり」のようにゆつくりしている会ですが、楽しい会です。同好の方をお待ちしております。



◇成人学級

去る五月二十三日(水)町公民館第一会議室で、町長臨席のもと、学級生十八名が出席して開講式が行われました。

開講式終了後、学習として、元小学校長、田村操先生から「家庭における人間関係」のテーマで講義が行われました。

なお役員は次の通り決まりました。

委員長 奥山 忠雄

副委員長 野村チヨノ
会計 早田 精

六月の学習予定
六月十八日(月)

研修旅行(白河、棚倉方面)
六月二十九日(金)

「大人の立場と責任」という課題で学習します。

体育館に 屋外時計設置

町公民館広場に面した体育館

を訪れ油絵を寄贈されました。

菊地さんが 油絵を寄贈

生まれ故郷で初の個展を開いたブラジル・サンパウロ市在住の洋画家菊地忠平さんが十七日兄の忠顯さんといっしょに公民館



昭和三十年、福島工業卒業後ブラジルに移住されました。

五月九日から十三日まで福島の山田アパートで「異国ブラジルを描く」と題した個展を開催、絵画フアンの注目を集めました。

忠平さんは「ふるさとで展覧会を開けて夢のよう」と大いに感激し、これを記念して公民館に絵を寄贈されました。

贈られた絵は「イビウナの町」(F8号)で、古い教会が素朴なタッチで描かれた作品。公民館では四月にオープンした勤労者体育センターのロビーに早速掲げ、町民の目を楽しませています。

屋外に時計が設置されました。いままで、公民館事務室へ時間を開きにきていました。広場、公園利用者等にとっては大変便利だと思われまます。

公園、広場を早朝・日中・夕方、散歩・運動等で使用される方、ぜひ御利用下さい。



▲設置された屋外時計

第二回、郡大会に優勝 同見ゲートボール愛好会

五月十日、桑折町民運動場で開催された第一回伊達郡ゲートボール大会には、郡内各町から四十八チームが参加、盛大に行われました。当町からは愛好会A、B二チームが出場、激戦の末Aチームが決勝戦で桑折北町Aチームを破り、初の県協会長亀岡高夫杯と福信理事長杯を獲得しました。

また五月十六日の第三回福信年金友の会ゲートボール大会にも決勝戦で川俣新仲町チームを破って優勝しました。なお今秋

の県大会をむざし頑張りまます。



▲優勝した愛好会チーム

町民学校生徒募集

公民館では、昭和五十九年度前期町民学校を左記のとおり開設いたしますので町民の皆様、ぜひ参加して下さい。

1開設科目と内容

◇短歌教室(毎週月曜日)

○内容 日々折々の想いをうたに

○講師 きびたき短歌会

会長小野たか子先生

○定員 三十名

○時間 午後七時三十分から

午後九時三十分

◇回数 六回(2/22, 3/12, 3/26, 4/9, 4/23, 5/7)

◇山水画入門(毎週水曜日)

○内容 墨絵で心にゆとりを

○講師 旺安会々員

石原晃雲先生

○定員 三十名

○時間 午後七時三十分から

午後九時三十分

○回数 六回(6/29, 7/13, 7/27, 8/10, 8/24, 9/7)

◇料理教室(月一回第一土曜日)

○内容 四季折々の料理

○講師 樋口クッキングアカデミー

樋口和歌子先生

○定員 三十名

○時間 午後一時三十分から

午後四時

○回数 九回(7/29, 8/12, 8/26, 9/9, 9/23, 10/7, 10/21, 11/4, 11/18)

◇軟式テニス教室(毎週金曜日)

○内容 基本からゲームまで

どなたでも、気軽に

○講師 国見町公民館

佐藤政弘先生

○定員 二十名

○時間 午後一時三十分から

午後三時三十分

○回数 六回(6/29, 7/13, 7/27, 8/10, 8/24, 9/7)

2受講料・入講料五〇〇円

(申込時に納入)

・材料費等は実費負担

3対象 町内在住及び町内に

勤務している成人男女

4申込期限 六月二十五日

5問い合わせ 町公民館まで

TEL 026-2676

(南四一五六)



町営牧場で開牧式

好天に恵まれた五月二十六日、町営牧場で、高橋友義町牧野組合長はじめ、佐藤善右エ門町長、県や町、畜産農家の関係者ら約六十名が出席し、町営牧野の開牧式が行われました。

今年、例年になく異常気象のため牧草が育たず、昨年より十七日遅れとなりましたが、町内三十三戸の農家から、子牛六頭を含む三十五頭が一斉に放さ



▲のびのびと走りまわる牛たち

れました。

冬の間、狭い畜舎で過ごしてきた牛たちは、広々とした牧場ののびのびと走りまわり、あたり一面にじけた新緑の牧草をのんびりとはいでいました。放牛牛は、二十九日まで合わせて七十三頭となり、十月中旬まで、ヤマでの生活を楽しむことになりました。

マレーシアの青年が来町 フィリピン

二十一世紀友情計画アセアン青年受入れ事業（国が五ヶ年計画で行うもので今年が初年度）で来日した、アセアン各国の青年たちのうち二十九名が来福し、県内各地に民泊しました。わが町には、マレーシアのアブ・ラヒン・ピン・フツシンさ



▲佐藤秀世さんとフツシンさん（中央）

ん（二十九歳）が石母田東の佐藤秀世さん宅に、また、フィリピンのルズ・ロザリンド・サーガン・ジェーンさん（二十八歳）が本町の紺野恵子さん宅に、それぞれ民泊しました。

佐藤さんは、総理府の青年の船で、また、紺野さんは福島県若人の翼で、ともに海外派遣の経験があり、その経験を生かすの受け入れとなったものです。

五月二十五日から二十七日までの三日間、日本滞在一ヶ月間のうちの、短い期間の民泊ではありましたが、それぞれの家庭でプライベートタイムを過ごした二人は、言葉や食べ物、習慣の違いはあったものの、とても満足し、喜んで帰られたとのこととです。



▲紺野恵子さんとジェーンさん（左）

伊達支部幹部ら 三百三十余名が集う

第三十五回県消防協会伊達支部幹部大会が、六月一日午前十時から、国見町体育館を会場として、伊達七町の消防団幹部と各町町長、議長ら来賓約三百三十人が出席して開かれました。

消防団員に対して黙とうをささげたあと、開根支部長が式辞を述べ、佐藤善右エ門町長が、歓迎のあいさつをしました。席上、各種表彰の伝達、伊達支部長表彰が行われ、受賞者を代表して、菊地昭平さん（石母田）が、謝辞を述べました。樋口団長から、開催地団長の謝辞が述べられ、華やいだ雰囲気の中で大会の幕を閉じました。



▲体育館で行われた幹部大会

～ 国見町民憲章 ～

1. あたたく、たすけあう町をつくりましょう。
1. 楽しく働いて、豊かな町をつくりましょう。
1. すこやかで、よろこびに生きる町をつくりましょう。
1. 力をあわせて、すがすがしい町をつくりましょう。
1. 教育と文化を高め、希望にみちた町をつくりましょう。

編集日記

○今月号で、河川に生息する生物の調査結果を載せましたが、その調査方法は簡単で、30cm四方のワクをつくり、そのワクを川に置き、その中の石などについている生物を採集し、その生物で河川の汚れを判定するものです。誰にでもできるので、一度ためしてみたいかが。○ところで、今回も、アキカンやナイロンなどのゴミが川に捨てられているのが目につきました。私たちににとってはなくてはならない川、私たち自身で守らなければと思うのですが……S